

イネカメムシの発生にご注意を！

イネの穂を加害するカメムシ類のうち、近年、主に県東部や北東部で「イネカメムシ」の発生が多くなっています。県内での発生地域も拡大傾向にあります。本虫の加害により不稔や斑点米が生じ、多発した場合には収量・品質に大きく影響します。

【特徴】

- ・ 体長約13mm。黄褐色で背部両側に白色帯を持つやや細長いカメムシ。
- ・ 7月頃から水田に飛来。穂を加害するため、出穂期頃から発生が増加する。
- ・ 行動はやや素早く、近づくと穂や葉の裏側に隠れたり、飛び去る。
- ・ 盛夏期の日中はイネの株元に潜み、夜間～午前中に穂へ来ることが多い。



穂を加害する成虫

葉に止まる成虫

もみ基部を加害する成虫

右端は成虫・他は幼虫



本虫による斑点米

写真：（一社）埼玉県植物防疫協会・埼玉県農業技術研究センター・埼玉県病害虫防除所

- 7月～9月にかけて発生が続きますので水田を注意深く観察してください。
- 盛夏期は日中を避けて朝のうちに水田を観察することが重要です。
- 曇や雨の日は日中もイネの穂や葉に多いことが多いため観察しやすくなります。
- 裏面を参考に、出穂期～登熟期に必ずイネカメムシの防除をしましょう。
- 幼虫の加害能力も高いため、見逃さず確実に防除してください。

発行：埼玉県農産物安全課・埼玉県病害虫防除所（令和6年3月）

イネカメムシの防除対策

①初発の把握

⇒ 越冬場所からの飛来は7月上旬頃から見られる。6月下旬以降、暑い日が数日続いた後は注意深く水田を観察する。

②不稔被害の防止・低減（1回目防除）

⇒ **出穂期～穂揃い期**に必ず薬剤散布を行う。粒剤では処理を数日早める。

③斑点米の防止・低減（2回目防除）

⇒ **穂揃い期の7～10日後**に薬剤散布を行う。粒剤では処理を数日早める。

④収穫後は速やかに耕うん

⇒ 刈株を埋没・枯死させ、虫の生息場所を作らない。

⚠ 本虫は大型であることに加えてイネの穂に対する選好性が高く、小型の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメなど）と同じ防除対策では効果が上がりにくい。本虫の発生時期に合わせ、できるだけ虫体に薬剤が到達するような対策を取る。

移植時期	品種	7月			8月			9月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
4月下旬 ～5月上旬	彩のきずな コシヒカリ		防除時期						
	彩のかがやき		防除時期						
5月中旬 ～5月下旬	彩のきずな コシヒカリ		防除時期						
	彩のかがやき				防除時期				
6月中下旬	彩のきずな				防除時期				
	彩のかがやき						防除時期		

防除時期は、**1回目**（出穂期～穂揃い期）および**2回目**（穂揃い期の7～10日後）の期間の目安です。実際の防除に際しては、イネの出穂状況を十分確認して適期に行ってください。

☞ **防除は2回行うことが望ましいですが、「出穂期～穂揃い期」の防除を優先的に行ってください。**

【イネカメムシの防除薬剤例】

各薬剤の登録内容は令和6年3月15日現在

商品名	IRACコード	倍数・処理量	使用回数・時期
スタークル液剤10	4A	1,000倍	収穫7日前まで・3回以内*
キラップフロアブル	2B	1,000～2,000倍	収穫14日前まで・2回以内
トレボン乳剤	3A	2,000倍	収穫14日前まで・3回以内
スタークル豆つぶ	4A	250g	収穫7日前まで・3回以内*

*「スタークル液剤10」「スタークル豆つぶ」とも銘柄ごとの総使用回数は3回以内ですが、薬剤の有効成分（ジノテフラン）は共通です。ジノテフランの総使用回数は4回以内ですので注意してください。

県内における本虫の最新の発生情報は、埼玉県病害虫防除所ホームページをご覧ください。（右のQRコードからもご覧いただけます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>



本虫に係る相談については、お近くの県農林振興センターか以下のいずれかに御連絡ください。

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661
埼玉県農産物安全課 電話：048-830-4053

